

2016年度 日本気象学会東北支部第1回理事会 議事録

日時：2016年6月17日（金）15時30分～17時30分

場所：仙台管区気象台第3会議室

出席：田中、藤田、桜井、岩崎、境田、青木、福山、岩尾（以上理事）、小池（会計監査）、
山崎、岩淵、斎藤、佐藤（賢）（以上幹事）（敬称略）

欠席：杉山、名越（以上理事）（敬称略）

司会：桜井理事

議題1. 日本気象学会東北支部第30期役員選挙の結果

- ・議案のとおり

議題2. 新支部長及び新常任理事の互選

- ・議案を承認した

議題3. 事業等の担当理事の選任

- ・事務局(案)のとおり承認した。

議題4. 2015年度事業報告及び会計報告

- ・議案の通り

- ・支部研究会費の10万円は何に使用するのか？

→遠方から来る学生や研究費のない方への旅費の補助などが目的

- ・繰り越し金も含め、有効に使用するのがよい。

地方の学生への補助も含め、もちろん無駄のない範囲で。

議題5. 2015年度会計監査報告

- ・議案を承認した

議題6. 2016年度事業計画及び予算

- ・議案、別添資料を参照。

1) 東北支部気象講演会（別紙参照）

- ・日付の候補が、11月12日と19日であったが、岩手大学名越先生より、19日で会場（岩手大学 北桐ホール）を終日抑えている旨、連絡あり。

- ・共催、後援のところにある学校気象台研究会とはどのような団体か？

→名越先生が中心となっている岩手大の団体。後援に入ってもらいと、会場費が安くなるといっている。

→昨年度アンケートを実施した結果、さらに自治体を後援していただくことで、ポスターやチラシの配布に協力してもらえるなど、幅広い集客につながった。今回もそのようにしたい。

- ・学会としてはどのような形式で運営に携わるのか？誰かが現地に向かうのか？それとも後援団体に所属している学会員が参画するということか？
- 地方理事をはじめ、地元の方に運営をお願いするということになる。

- ・気象学会もこういった講演会時に会員を募集してどうか？
- ・大学の先生などが講演してくれると、学生などが参加しやすい
- ・ポスターは誰が作っているのか？
 - 原案は事務局が作成するが、実際のレイアウトや装飾などは業者（※）が行っている。
 - ※昨年度はハリウコミュニケーションズ
 - こういった部分も予算を有効に使って、業者をお願いするところはお願いし、事務局や理事の負担を減らすようするのがよい。

2) 東北支部気象研究会

- ・旅費の補助は弘前大や秋田大など遠方の学生が中心に想定している。
 - 天気などに案内を掲載するだけでなく、大学の先生に直接働きかけるのも必要
- ・別紙2の「広報内容」について、講演申し込み方法の、「研究費等から旅費が支出できる場合は…」という部分は不要ではないか？
 - そのように修正する
- ・気象台の方は、調査研究会のほうで発表するのか？気象学会の研究会として発表するのか？
 - 基本的に気象台業務の発表は調査研究会での発表と理解する。事案があれば、ケースバイケースで考えたい

3) 東北支部だより

- ・83号は8月発行を考えると、原稿集めを急ぎたい。84号は2月発行を予定。
83号の内容は、支部長挨拶、昨年度の気象講演会、今回の理事会議事録、気象研究会の広報などを想定しているが、もう1つくらい何か募集できれば。事務局と連携して進めていく
気象講演会は境田先生が担当。
昨年度に引き続いて、ハリウコミュニケーションズズにお願いしたい。後日工程等確認のための打合せを行う予定

5) 支部強化基金による活動

- ・担当は杉山理事
- ・例年会場の設定が大変。人が集まりやすいところがいい。
- ・中心地は予約が取れず難しい。
- ・年内開催にこだわらず、年明け以降も視野に入れても良いと思う。
- ・去年は会場を決めてから、内容のテーマ決めを行った記憶がある
 - 去年はそうにしたかったが、会場がとれなかった。テーマは第1回理事会で決め、その後も会場が決まらず、気象台開催になった。
 - 気象台でやってもらえるなら、見学などもできてよいと思う。
気象台側の都合さえよければの話となるが…。

- 気象台としては、それで構わない。
- サイエンスカフェは固定客（大体が予報士）が多い。いろいろな人来てもらいたいという考えもあるので、会場はその兼ね合いである。
- 気象台開催は、2・3年に1回くらいのペースがいいのでは。
毎年リピーターが多いので続けてでないほうがよい。

(2) 2016年度予算案

[支部一般会計]

- ・事務費が昨年に比べて10万円ほど少なくなっているが、これは昨年PCを購入したため？
→そのとおり

議題7. その他

- ・議案を参照

(1) 2018年度秋季大会の準備について

- ・大会の会場について状況・経緯を整理したい（岩崎）
 - 3日4会場では発表者が多く、時間がたりないという指摘があり、学会本部で意見を求めていた。
東北支部として、2018年度秋季大会は、3.5日4会場、3日5会場のいずれでも対応できるように仮予約していた。
 - 会場を増やすと、運営が大変。
 - 学会としては3.5日4会場が理想だが、各地方でいろいろな案が出ているところ。
開催する地方にお任せするというのが現状。

- 仮予約や本予約の絡みで、今年度（できれば2016年内）に決めたい。
- 現在の予約はどちらでも対応できるように、「3.5日5会場」で押さえている所。
- 3.5日5会場でとってしまうというのはダメなのか？
- その後のキャンセル代などを考えると厳しい。

- 会場が多い方がよいような気もする
- そうすると聴けない発表が多くなるというデメリットがある。
- 日程、会場数については大学主体で検討していきたい。

- 今年度も臨時の理事会を開催し、大会の会場やサイエンスカフェについて議論できればよい

以上